

道の出会い

陳紅舟

2023年の7月、日本に来て半年が経ち、私はだんだん日本の暮らしに慣れてきました。カルチャーショックを受けながらも、生活は落ち着いてきました。その時はまだ、自分が日本に来たという実感があまりなく、ついこう思うてしまうことがあります。スマホでいつでも中国にいる家族と連絡が取れるし、仕事、勉強、生活、これらも全部中国でやっていることと同じだし、違うのはただ子供の頃から見てきたアニメ、漫画作品のキャラクターが町中で飾られていることだけ。とすれば、私が日本に来たのは、子供の時の夢の続きを見るためだけになってしまいますが、それではあまりにも味気ないと思いませんか。そうでなければ、私が日本に来た意義はいったい何でしょうか。

そんなことを考えながら、下校時間の後、私は一人で、帰り道を散歩していました。その時、ふと目に留まったのは、路傍の壁に飾られていたとある短歌サークルの作品でした。好奇心に勝てなかった私は少し近づき、顎に手を当てて、じっくり読み始めました。数多くない作品の中で、一つの短い句に、私は惹かれました。それにはこう書かれていました、「迷いながら見つけた道は、教えられた道より確かである」と。この言葉に胸を打たれ、頭の中に世界が入ってきたような衝撃は今でも感じています。今思えば、子供の時からいつも、教えられたことを何も考えずにそのままやってきました。まだ幼かった自分には、こうしたことに含まれた意味が理解できたわけがなく、ただ自分にとって、未知の世界に没頭していたでしょう。

それから、成長して学生になり、物事について、自分の判断を持つようになってきました。ずっとつまらないと言われていた先生の授業を受けてみたら、全然そうではないと思いました。その時から、自分は影響されやすく、他人の言葉、ネットの情報、これらが全て真実ではないということを意識できるようになりました。それ以降も、無知のままですが、自分でみて、体験して、自分で決めたいと思うようになりました。

大人になってから、やってきたことや経験してきたことが増え、世間のルールも理解し、それに従って生きられるようになってきました。とはいえ、時々つまづくこともあります。大学院の入試を受け、何回か失敗して、その度に、また自分を疑いはじめ、他人に、家族に負担を与えてしまうことを不安に思ってしまう。

そんな時、道でぶらついていて自分はこの言葉に励まされ、学生時代の無

鉄砲な自分を思い出しました。「迷いながら見つけた道は、教えられた道より確かである」。この言葉こそ、今回私が「昔の自分に伝えたいこと」、そして、ここにいる皆さんと一緒に分かち合うこと、現状にとどまらず、前に踏み出す勇気が湧いてくる自分への励ましの言葉です。以上が、私の「道の出会い」でした。